

消えた30分

～私のノートに残された、奇妙な記録～

このノートを見つけた人へ：
最後まで読んでください。
そして、同じ過ちを繰り返さないで。

4月7日（月）

AM 8:45 - 通勤電車内

今日から新しいプロジェクトが始まる。

チームリーダーの佐藤さんは「これは会社の命運を賭けた案件だ」と言っていた。

プレッシャーはあるけど、やりがいがある。

頑張ろう。

メンバー：佐藤（リーダー）、田中、私、山本

← 山本さんは急遽外れたらしい。理由は不明。

4月14日（月）

PM 11:30 - 自宅

おかしい。

今日、30分間の記憶がない。

15:00に会議室に入って、気づいたら15:30だった。

みんな普通に話してた。私だけが「あれ？」って顔をしてたらしい。

【自分メモ】

- ・疲れてた？ → でも寝てない
- ・ぼーっとしてた？ → 30分は長すぎる
- ・誰も何も言わなかったのが不自然

4月75日（火）

AM 7:00 - 自宅

昨夜、夢を見た。

会議室で、誰かが私の名前を呼んでいた。

でも振り向いても誰もいない。

ただ、テーブルの上に「見るな」と書かれた紙があった。

今日、こっそり会議室を調べてみよう。

4月75日（火）続き

PM 12:30 - 会社・会議室

昼休み、一人で会議室に入った。

テーブルの下、椅子の裏、ホワイトボードの後ろ...

何もなかった。

...と思った。

でも、帰り際に気づいた。

天井のタイルが、
1枚だけ色が違う

4月16日（水）

- AM 9:00 - 田中さんに天井のこと聞いてみた
- AM 9:01 - 田中さん「え？何の話？」
- AM 9:05 - 一緒に会議室へ
- AM 9:06 - 天井は全部同じ色だった

【どういうこと？】

昨日は確かに違った。見間違い？

いや、写真を... ~~撮ってない~~

なぜ撮らなかった？

4月18日（金）

PM 3:00 - 会議中

また起きた。

今度は15分。

でも今回は違った。

「戻ってきた」瞬間を覚えてる。

私の声（？）

「大丈夫、もう少しで終わる」

誰の声？ 私の声なのに、私じゃない。

頭の中で響いた。

4月20日（日）

PM 2:00 - 自宅

今日、山本さんに連絡を取った。

プロジェクトを急に外れた理由。

山本さん（電話）

「...あの会議室には近づかない方がいい」

「俺も最初は記憶が飛ぶところから始まった」

「今は...もう大丈夫。でも代わりに」

電話が途中で切れた。

かけ直しても繋がらない。

最後、何て言おうとしてた？

4月27日（月）

AM 8:00 - 通勤電車内

今朝、鏡を見て気づいた。

目の下に、小さな傷。

いつついた？ 覚えてない。

PM 6:00 - 会社

佐藤さんに呼び出された。

「最近、大丈夫？ 疲れてない？」

佐藤さんの目の下にも、同じ場所に傷があった。

4月23日（水）

今日、私は重大なことに気づいた。

PM 11:00 - 自宅

このノートを最初から読み返した。

4月7日の記述。

「山本さんは急遽外れたらしい」

でも私、山本さんと働いたことがない。

入社以来、一度も。

なぜ私は山本さんを知っている？

4月24日（木）

AM 3:00 - 自宅

眠れない。

さっき、自分の手が勝手に動いた。

このノートに何かを書こうとしてた。

慌てて止めた。

でも一文字だけ、書かれてた。

忘

4月25日（金）

PM 3:00 - 会議室

今日の会議で、45分消えた。

戻ってきたとき、全員が私を見ていた。

佐藤さんが言った。

佐藤さん

「おかえり。君も仲間だね」

田中さん

「楽になるよ。全部忘れられるから」

4月26日（土）

AM 6:00 - 自宅

やっと分かった。

消えた30分は、「消された」んじゃない。

「上書き」されてたんだ。

私の中に、もう一人いる。

【真実】

あの会議室で、何かが「入ってくる」。

最初は短い時間だけ。でもだんだん長くなる。

山本さんは、きっと**完全に入れ替わった**。

佐藤さんも、田中さんも、もう...

4月27日（日）

PM 8:00 - 自宅

明日、会社に行かなければならない。

でも会議室には絶対に入らない。

このノートを誰かに見つけてもらえるように隠しておく。

もし私が「普通」に見えたら、それは私じゃない。

本当の私を見分ける方法：

左手の薬指を見て。

私は昔の怪我で、第一関節が曲がらない。

4月28日（月）

??? - ???

~~大丈夫、もう怖くない。~~

~~やっと楽になれた。~~

~~全部忘れられた。~~

この日の記述は、別人の筆跡で書かれていた。

最後のページ

このノートを見つけた あなたへ
もし職場に「入ったら記憶が飛ぶ場所」があったら

絶対に近づかないで。

そして、周りの人の「目の下」を見て。

同じ場所に傷があったら...

もう手遅れ。

追記：このノートの持ち主は、現在も同じ会社で働いています。

毎日笑顔で出社しています。

左手の薬指は、問題なく曲がるようになりました。

FIN

～ 消えた30分 ～

あなたの職場は、大丈夫ですか？